

# 海藻の摂取と前立腺がん罹患リスク：宮城県コホート研究

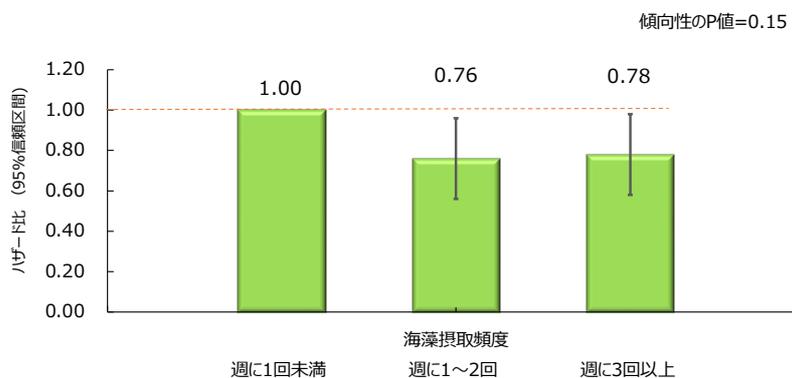
Seaweed consumption and the risk of prostate cancer: the Miyagi cohort study

2023年 European Journal of Cancer Prevention 発表

## 日本人における海藻の摂取は前立腺がん罹患リスクと関連がなかった

海藻には、食物繊維やミネラルなどの栄養素が含まれ、実験研究および動物実験では、海藻抽出物に含まれるフコイダンが腫瘍細胞の浸潤および血管新生に対する抑制効果を有することが報告されています。しかし、海藻の摂取が前立腺がん罹患リスクを軽減できるかどうかを検討した先行研究はほとんどありません。本研究では、日本人における海藻の摂取と前立腺がん罹患リスクとの関連を縦断研究により検証することを目的としました。その結果、海藻の摂取と前立腺がん罹患リスクとの関連は見られませんでした(図)。

海藻摂取と前立腺がん罹患リスクとの関連



## 研究のデータについて

本研究は、1990年6月に実施した宮城県コホート研究のデータを用いて解析を行いました。宮城県コホート研究は調査開始時点で宮城県内14市町村に居住する40~64歳の男性25,279名に自記式調査票(ベースライン調査)を配布し、22,836名(90.3%)より有効回答を得ました。本研究ではこのうち、追跡開始時に40歳未満の者、がんの既往者、海藻の摂取頻度に関する質問に未回答の者を除いた19,311名について分析を行いました。追跡期間は平均24.5年間で、815名の前立腺がん罹患が観察されました。

## 海藻摂取について

海藻摂取頻度は、ベースライン調査の回答から週に1回未満、週に1~2回、週に3回以上の3群に分類しました。海藻摂取頻度が週に1回未満を基準群として、前立腺がん罹患リスクとの関連を検討しました。

## 他のリスク要因の影響について

本研究では海藻摂取と前立腺がん罹患に関連すると考えられる要因の影響を考慮したデータ解析を行っています。具体的には、年齢、BMI、がんの家族歴、糖尿病の既往歴、教育歴、喫煙歴、飲酒歴、歩行時間、7つの食品(肉類、魚類、乳製品、野菜、きのこ類、果物、コーヒー)の摂取量、総エネルギー摂取量について、偏りがなくなるように統計学的な処理を行いました。

## 研究の特徴と限界について

この研究の特徴は、(1)一般地域住民を対象とした大規模コホートのデータを用いた点、(2)前向き研究のデザインであり、質の高い追跡調査の結果であった点、(3)多くの交絡因子を考慮した解析を行っている点、(4)がんの進行度および他の食品摂取量による層別化解析を行っている点があげられます。一方、この研究の限界は、(1)海藻摂取はベースライン時に1回しか評価していないため、追跡期間中における摂取頻度の変化を考慮していない点、(2)海藻の種類について特定できなかった点、(3)海藻の正確な摂取量が得られていない点などがあげられます。